

ビジネス実務関係教育課程ガイドライン

10. 4. 1 一部改正

13. 4. 1 一部改正

18. 4. 1 一部改正

21. 4. 1 一部改正

本協会におけるビジネス実務関係の資格認定を受けようとする場合は、「ビジネス実務士資格認定に関する規程」及び「上級ビジネス実務士資格認定に関する規程」をもとに教育課程を編成すること。更に詳しい授業内容については以下のガイドラインを参照のこと。なお、読替科目は（ ）で示した。例示科目、読替科目以外のビジネス実務教育関連科目を選択科目としてあてるときは、本協会資格教育課程審査常任委員会の承認を得なければならない。

教育目標

ビジネスとは、個人または組織体がその目標を実現するために、ヒト・モノ・カネ・情報などの諸資源を活用して、価値を創出するためのシステム的な協働行為である。このビジネスについて理解し、ビジネス実務能力を養成することを教育目標とする。

I. 必修科目

ビジネス実務総論

組織システムの理解を通じて、実践的なビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を学習し、次のような内容を含むものである。

- ① ビジネス実務の概念
- ② ビジネス実務の推進力・能力開発
- ③ ビジネス実務とキャリア形成
- ④ ビジネス実務の基礎知識
- ⑤ ビジネス実務の基本的技術等

(ビジネス実務論、ビジネス実務概論、ビジネス実務基礎論 など)

ビジネス実務演習

ビジネス実務を実際に行うために必要な知識・技術について学習し、次のような内容を含むものである。

- ① 日程計画
- ② 会議と会合
- ③ 情報の収集・活用
- ④ 仕事と交渉
- ⑤ 企画とプレゼンテーション
- ⑥ その他ビジネス活動に必要な知識・技術等

(ビジネス実務総合演習、ビジネス基礎演習、ビジネスワーク、ビジネスシミュレーション、経営実務演習など)

II. 選択科目

I 群 「ビジネス実務」関連分野

ビジネス実務を実際に行うために必要な技能、技術を学習する。

表現技術

ビジネスにおける面接、会議、発表などの場面で他者に対して効果的に自己を表現できるよう、言語表現能力を開発するための基本を学ぶ。

(言語表現法、パフォーマンス論、言語表現論、スピーチ論、ノンバーバル言語論、日本語表現 など)

プレゼンテーション

プレゼンテーションの意義、目的、内容、すすめ方、ツールの活用等を通じて、話し手と聴き手の相互交流形成の、効果的なプレゼンテーションをするための基本を学ぶ。

(プレゼンテーション論、企画とプレゼンテーション、ビジネスプレゼンテーション など)

ビジネスコミュニケーション

意思伝達の表現法、合意形成、交渉等、ビジネスの場面における集団内または集団間の言語・非言語を媒介とした効果的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。

(コミュニケーション技術論、対人交渉論、組織コミュニケーション論、企業コミュニケーション論、広報・広告論 など)

ビジネス外国語

ビジネスの現場で必要と思われる外国語の知識・技能を習得し、外国語の背景にある文化とエチケットについて学ぶ。

(実用外国語、実用英会話、時事英語、貿易英語、商業英語、秘書英語、ビジネスイングリッシュ、オフィスイングリッシュ など)

統計実務

企業における情報の収集・解析の基礎的技能習得を通じて、各業務の目的に応じた情報を引き出し、合理的な意思決定を導き出す手法を学ぶ。

(統計学、統計演習、データ解析、データ解析演習、社会調査法 など)

文書実務

ビジネス文書作成上の基本的な知識や、効果的な文書表現・作成技術・取り扱い等について学ぶ。

(文書表現法、ビジネス文書、文書演習、文書処理演習、ワープロ演習 など)

プロジェクトワーク

事例研究やフィールドワークを通じて対象の実態に近づき、情報を収集・活用し、アイデアを形にして表現し、プロジェクト推進の基本を学ぶ。

(プロジェクトマネジメント、プロジェクト管理、プロジェクト演習、プロジェクトワーク論 など)

簿記

複式簿記の基本原則、勘定科目、会計帳簿等に関する理論的把握と実践的帳簿技術を学ぶ。

(簿記原理、企業簿記、簿記論、計算実務、簿記システム論、会計情報処理演習、コンピュータ会計 など)

貿易実務

貿易取引の一般条件、国際経済・法律、保護貿易等の貿易理論と、商業信用状、船荷証券、海上保険証券、外国為替等の輸出入業務に必要な広範囲の実務知識について学ぶ。

(貿易論、貿易商務論、貿易実務演習、貿易実務論 など)

ビジネス関連法規

企業活動に従事するうえに必要な、商法総則、会社法、手形・小切手法、税法等の法律知識一般について学ぶ。

(経営法務論、商事関係法、商法、企業と法律、実務法規 など)

インターンシップ

企業等において、一定の期間研修・実習することにより現代オフィス環境を把握し、現場に即したビジネス実務を学ぶ。

(企業実習 など)

II 群 「ビジネスマネジメント」関連分野

組織体における経営や事業活動を理解し、組織における人間行動・人間関係・集団心理等について学習する。

経営学総論

企業システム、マネジメント、組織の中の個人、リーダーシップ等、経営と組織に関する基礎

知識を学ぶ。

(経営学、経営学概論、経営管理論、企業システム論、マネジメント論、人事管理論 など)

現代企業論

企業経営の現代的特長と課題、企業構造、企業形態、グローバル化・情報化と企業活動等、変化の激しい現代企業の動向について学ぶ。

(公企業論、企業経営論、企業経営者論、企業経済論、国際企業論、多国籍企業論、現代企業経営 など)

オフィスマネジメント

オフィスの概念、オフィスの分析・改善・標準化、文書管理、ファイリングシステム、オフィスのレイアウト、オフィスオートメーション等について学ぶ。

(オフィススタディ、事務管理、文書管理、資料管理、ファイリングシステム、オフィス環境 など)

マーケティング

マーケティングの概念、製品計画と価格決定、戦略、販売経路、販売促進、広告、販売員活動、消費者行動等、マーケティングについての基礎理論や実際を学ぶ。

(商品総論、流通論、販売管理論、消費者行動論、マーケティング戦略論、マーケティングリサーチ、商業経営論、サービスマーケティング、広告論 など)

会計学

会計及び会計学の意義、財務諸表の意義と内容、企業会計原則等を学ぶ。

(企業会計論、会計総論、財務諸表論、管理会計、監査論、財務会計、会計情報論、経営分析 など)

情報管理論

情報の発生から分類・保管・保存・廃棄に至るまでのプロセスを総合的に管理するための知識・技術について学ぶ。

(情報管理概論、レコードマネジメント、業務管理 など)

中小企業論

中小企業の抱える諸問題、中小企業の地位と役割、中小企業の存立形態、中小企業の活性化、ベンチャー企業の実態等について学ぶ。

(中小企業経営論、中小企業概論、地域中小企業論、地域産業論、ベンチャービジネス論 など)

組織開発論

組織開発の意味・目的、組織開発の方法、教育訓練技法、問題解決法等個人・集団・組織レベルの能力開発について学ぶ。

(能力開発論、人材開発論、人的資源活用論、創造性開発 など)

社会心理学

社会集団の中での人間の行動や心理を理解する。対人魅力、対人コミュニケーション、対人影響課程、集団行動、大衆心理等の学習を通じて、社会や組織集団と個人との相互関係について学ぶ。

(集団心理学、組織心理学、産業心理学 など)

人間関係論

人間関係の中心テーマは、産業における人間関係(組織と個人、リーダーシップなど)である。主として企業組織における人間関係を理解し、企業における人間問題、企業組織における人間行動を学ぶ。

(人間関係演習、行動科学論、行動科学演習、組織行動論、情報行動論 など)

Ⅲ群 「ビジネスと情報」関連分野

組織体の経営や事業活動に必要な情報活用の方法を理解し学習する。

情報倫理

情報社会の特性を理解するとともに、種々の問題点について学習する。また情報を取り扱うう

えて知っておかねばならない、知的財産権、個人情報保護、セキュリティなどについて学ぶ。
(知的所有権、コンピュータセキュリティ、情報化社会と秩序、プライバシー論、マルチメディア法制論、メディア社会の病理 など)

情報活用演習

アプリケーションウェアを利用したデータ処理、異アプリケーション間のデータ互換、ビジネスシミュレーションの基礎的技能等、コンピュータをツールとして業務に利用するための知識・技術を学ぶ。

(ソフトウェア演習、インターネット演習、マルチメディア演習、表計算演習、ネットワーク基礎演習、CG演習、コンピュータ基礎、文化情報処理、経営情報システム演習 など)

情報ネットワーク論

情報ネットワークの仕組とその利用分野に関する理解を深め、パソコン通信、LAN、グループウェア、インターネット等の基本を学ぶ。

(情報伝達論、ネットワーク組織論、情報ネットワーク演習、インターネットと社会 など)

データベース論

データベースの基本概念とその種類を理解し、データベースの構造とその作成方法、各種操作方法等について学ぶ。

(データベースシステム、データ管理論 など)

情報検索

データベースから、一定の条件を満たす情報を検索するための知識及び技術について学ぶ。

(情報検索演習、データベース演習、情報・文献検索 など)

情報処理論

計算機のハードウェア及びソフトウェアに関する一般的な知識を習得し、情報の効率的生産及び活用についての基礎知識を学ぶ。

(情報処理概論、データ処理概論、電子計算機論、計算機概論、コンピュータ概論 など)

情報処理演習

データ構造、アルゴリズム、プログラミングの演習等、情報処理に関する基礎的な知識と技術について学ぶ。

(プログラミング演習、アルゴリズム演習、システム設計演習、情報システム演習 など)

情報科学

情報の本質、意義及び機能等、情報科学の基礎概念について学ぶ。

(情報科学概論、情報科学論、情報概論、計算機科学 など)

エンドユーザコンピューティング

業務に最適なソフトウェアの選択や利用法、ハードウェア、ネットワーク環境の整備等、コンピュータをプラットフォームとした情報社会を利用者の立場から学ぶ。

(シスアド演習、EUC演習 など)

IV群 「ビジネスと現代社会」関連分野

国際的視野をもって産業や文化、地域、生活環境等について学習する。

情報社会論

情報化の進展とともに社会の構造や制度がどう変わるか、理想的な情報社会とは何か、また情報社会における人間と機械との関係のあり方等を学ぶ。

(情報環境論、情報と社会、情報メディア論 など)

情報文化論

情報のもつさまざまな側面のうち、これを文化という角度から分析・考察を行ない、情報と人間生活とのかかわりについて学ぶ。

(情報と文化、情報と人間生活、情報文化、メディア文化論 など)

比較文化論

芸術や音楽、人間の考え方、感じ方、価値観等、人々の集団と集団の間の交流を通じて、互いにその文化のあり方を比較することによって、その文化遺産について学ぶ。

(異文化理解、国際交流、国際文化交流、比較文化・社会論 など)

国際理解

グローバル時代にあつて、現代の国際事情を理解し、主として異文化コミュニケーションを学ぶ。

(国際関係、国際事情、比較国際論、異文化(間)コミュニケーション論 など)

観光ビジネス論

経済規模、産業を構成する企業群、消費者動向、政府の観光政策等、観光・レジャービジネスの産業構造・諸事業内容・企業戦略を学ぶ。

(観光学、観光事業マーケティング、観光事業研究、観光事業経営、観光ビジネスとサービス など)

ボランティア論

ボランティア活動の歴史、意義・実情について理解し、コミュニティの一員としてのボランティア活動への参加のあり方を学ぶ。

(社会ボランティア論、高齢者ボランティア論、国際ボランティア論、国際協力論 など)

福祉とビジネス

ビジネス現象を非営利団体のマネジメント領域にまで広げてとらえ、福祉の現状と問題点、その解決の鍵としてのビジネス活動の視点やあり方を学ぶ。

(福祉ビジネス論、社会福祉概論、福祉産業論、福祉介護論、ケアシステム論、社会福祉とサービス など)

ホスピタリティ論

ホスピタリティの概念、ホスピタリティの構成要素、ホスピタリティインダストリー、ホスピタリティとマーケティング等ホスピタリティの基本概念を学ぶ。

(ホスピタリティ産業論、ホスピタリティマネジメント、ホスピタリティビジネス、サービス論 など)

産業論

グローバル化、情報化、サービス化、高齢化等の影響を受ける産業構造の変化と今後のあり方等、産業分類、産業構造並びに産業発展の法則について学ぶ。

(産業組織論、産業構造論、日本の産業、サービス産業論、産業史、経営史 など)

生活と経済

経済学で使われる基本用語の学習と、ビジネス活動に必要な経済的知識を生活者の視点から理解し、主として身近な経済的事象の基礎的知識を学ぶ。

(生活経済学、暮らしと経済、経済生活論、消費者心理学、ミクロ経済学、マクロ経済学 など)

生活環境論

生命を大切に、さまざまな環境を保全するための新しい生活スタイルの確立について考え、環境に対して働きかけていくための基本的な知識を学ぶ。

(地域環境論、家庭環境論、社会環境論、環境デザイン論、現代環境論、都市と環境 など)

現代社会論

現代社会におけるさまざまな具体的諸現象を多角的に考察し、個々の問題に対する知識を社会構造の変化のなかに位置づけて学ぶ。

(産業社会論、大衆社会論、社会構造論、現代社会システム、現代社会と人間、現代社会と文化、人的資源論、非営利組織論 など)